

◎SACS概要

教育現場アセスメントシートSACS (サクス: Study assessment check sheet)

2020年5月策定

策定者 義高 互

I 開発歴及び経緯

◎SPSS=SACSの雛形(最初期段階形態)

学校学習参加支援尺度SPSS (School Participation Support Scale)

1998年6月 高度ポリテクセンターで研究されていた「仮称:知的障害者職業評価」の研究会に参加
障がい者評価の学校運用形態について検討

1999年4月 知的障害者職業評価を基礎理論にしてSPSSを策定
教員と調整者を含めて最小人数2名でシート①と②作成
子供の学校での活動の様子を把握し、支援するチェックシートとする

提唱 舟形町就学指導委員会 副委員長(1999年時) 義高 互

監修 舟形町 星川医院 星川医院長

◎SOSS2

2010年8月SPSSを改訂

- ・さらに詳細にチェックすることを目的にした。
- ・制作時に保護者の参加を必須とし、最少制作人数を4名とした。
- ・項目を計20項目まで増やした。

監修 舟形町 星川医院 星川医院長

2014年 SPSS2の活用が大幅に減少したため、一時提唱・提供を凍結

SPSS2の凍結原因

- ①制作人数が保護者を含めて増えたため、制作の労力が大きく活用が減少した。
- ②項目の評価判定を増やしたため、一人に対する制作時間が長くなった。
- ③SPSSのように簡素に短時間で制作する規格への改訂を始めた。

2020年4月 通級指導のためSPSS2を簡便に運用できるようにSACSに改訂した。

SPSS目的

- 1 学校生活の中で児童生徒が適正に就学できているかを確認する。
- 2 児童生徒の学校での生活が正常に行われ、不都合がないか確認をする。
- 3 学校での生活に不都合があれば、それがどこの部分なのかを確認する。
- 4 適切な医療・福祉相談への参考とする。

SACSチェックシート作成の流れ

- ① 対象者の指導・支援を行うものが、チェックシートを作成すべきか考察をする。
- ② 学校の責任者が対象者のシート作成を判断し、本人・保護者に制作の了解を得る。
- ③ 対象者の指導・支援を行うものがシート制作者として2名以上で作成する。
1名以上が主作成者、1名以上が4段階評価作成補助者として機能させる。
- ④ 完成後、少なくともシート①②のグラフを本人保護者に提示する。
- ⑤ 学校・教育委員会・就学指導委員会などでシートによる対象者の支援を検討する。

チェックシート作成の留意点

- ① シート作成者が各項目について四段階の評価をする。

② 制作者・確認者の該当資格は対象者が所属する学校・施設等の資格保有者とする。

保有者の資格：各教員免許等の教育従事資格、または医療従事・福祉従事資格

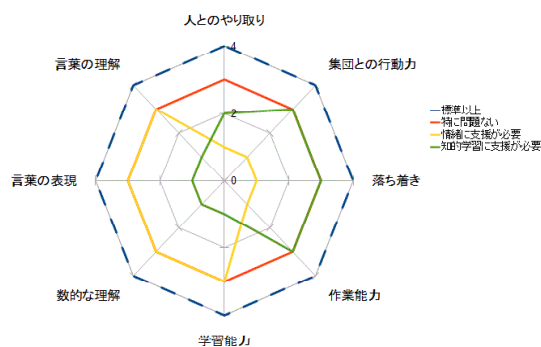
③ 4段階評価で評価段階が確定しにくい場合は作成補助者に評価判断を求める。

④ チェックシートは2年以上経過した場合、無効と考え再作成する。

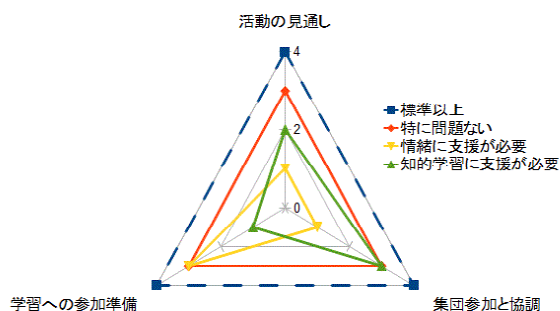
⑤ チェックシートは診断ではなく、医療診断に繋げる判断材料と考える。

SPSSシート作成例 4タイプ(標準以上 特に問題ない 知的学習に支援が必要 情緒に支援が必要)

SPSSシート①例 四つのタイプ

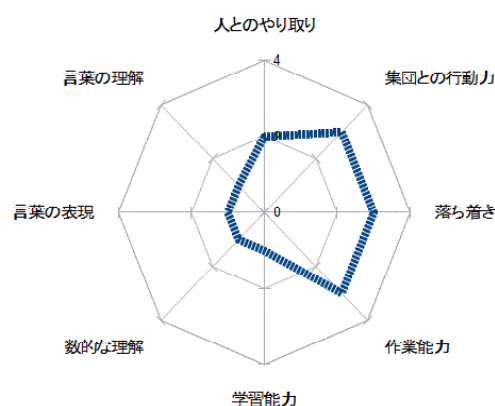


SPSSシート②例 四つのタイプ

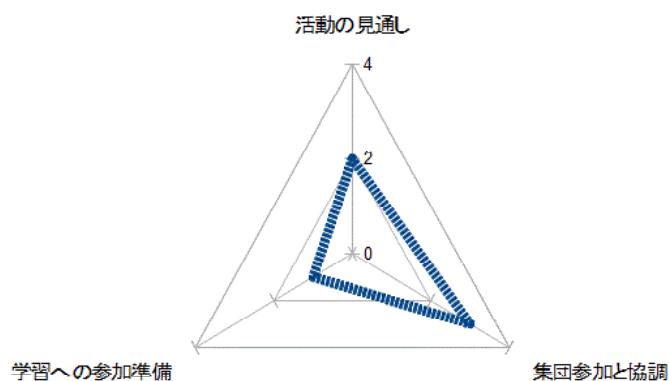


シート例 知的学習に支援が必要な場合

SPSSシート①例: 要知的支援

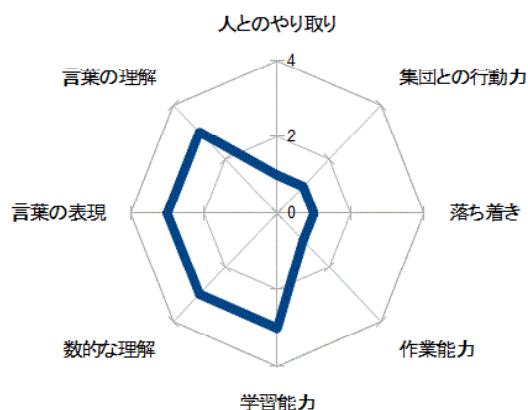


SPSSシート②例: 要知的支援

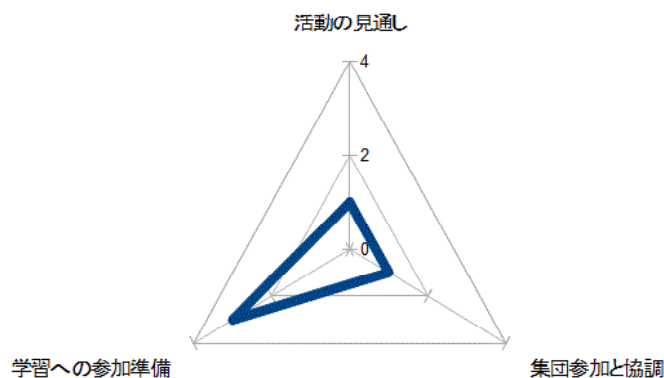


シート例 情緒に支援が必要な場合

SPSSシート①例: 要情緒支援



SPSSシート②例: 要情緒支援



Ⅱ SACSについて 教育現場アセスメントシートSACS(サクス:Study assessment check sheet)

SPSS目的

- 1 学校生活の中で児童生徒が適正に就学できているかを確認する。
- 2 児童生徒の学校での生活が正常に行われ、支障がないか確認をする。
- 3 学校での生活に支援の必要があれば、それがどこの部分なのかを確認する。
- 4 適切な医療・専門機関への相談の参考とする。

SACSシート種類

A セルフチェックシート(自分で記入) アドバイスを必要とする10項目

B 観察チェックシート(観察者が記入) ①状態10項目、 ②支援3項目、 ③意欲項目4項目

SACS特徴

- ・本格的な検査や診断ではなくチェックシートによる傾向分析ができる。
- ・大まかに知的学習の要支援なのか、情緒に関する要支援か、傾向が現れる。
- ・傾向がわかれば、学校での支援や医療、専門機関への相談ににつながるることができる。

Ⅲ SACSのチェック項目と基準

各観察チェック項目

AシートBシート①10項目

- | |
|-------------|
| 1 意思の伝達 |
| 2 言葉の活用 |
| 3 文字の活用 |
| 4 数的な活用 |
| 5 学習参加 |
| 6 作業参加 |
| 7 落ち着き |
| 8 こたわり |
| 9 人との共感性 |
| 10 集団との協調活動 |

Bシート②3項目

- | |
|------------|
| 1 活動への見通し |
| 2 学習への参加準備 |
| 3 集団参加と協調 |

Bシート③4項目

- | |
|---------------|
| 1 起床 食事 就寝リズム |
| 2 学習全般への意欲 |
| 3 共同学習への意欲 |
| 4 教室での活動意欲 |

評価4段階

- | |
|------------------------|
| 評価4 時々または常時支援が必要である |
| 評価3 学校生活でごく稀に支援が必要である |
| 評価2 活動の中で特に個別支援が必要ではない |
| 評価1 標準またはそれ以上の適性や能力がある |

ABシートの目安

シート①は個の特性を見る ②は何を支援すべきかを見る ③は活動参加の状況を把握する
SPSS2と比較したSACSの利点と課題

- 利点 ①学年単位等の少人数で制作し状況を把握することができ、シートを制作しやすくなっている。
②個の大まかな状況を把握し、適切な支援につなげることができる。
③複数の対象を制作することで、学年や学級内で比較検討して支援することができる。

(例:活動グループの編成や集団活動の計画等)

- 課題 ①SPSS2より項目や検査過程を減らした結果、大まかなチェックシートになっている。
② ①の要因により判断材料の詳細がチャートに出にくくなっている。
③制作にあたる最少人数を4人から2人に減らしたことで、多様性が低下している。

総評 制作に人数と手間がかかり運用されなくなったSPSS2を手間の少ない運用がしやすい
SACSに改訂することで運用しやすくなった半面、対象者の状態詳細が表出しにくくなった。
課題はSACS運用後に専門的な検査や医療・福祉につなげることで解消させたい。

IV 各ABシートの基準

Aセルフチェックシート項目

子供自身が記入するチェックシート(自己診断チェックシート)用解説

次の10項目について

困っていたり、先生の声掛けや励ましなどが

必要な時は◎ ちょっとだけ必要な時は○ 必要ないときは△を書かせる。

1 思ったことの伝え合い(意思の伝達)

友達などと思ったことを伝え合いたい時、充分伝えられるよう声掛けやアドバイスが欲しい

2 話し言葉を理解するとき(言葉の活用)

先生や友達の話すことがわからない時、わかるようにアドバイスが欲しい

3 書いた文字などを理解するとき(文字の活用)

教科書や黒板の文字を読むときに、読みやすいようにアドバイスが欲しい

4 ごく簡単な計算をする時(数的な活用)

数字の簡単な計算でもやりやすくなるようにアドバイスが欲しい

5 勉強をする時(学習参加)

学習をする時、もっとよく理解できるようにアドバイスが欲しい

6 手や体を使って作業をする時(作業参加)

手先を使った活動をする時に良く活動ができるようにアドバイスが欲しい

7 長時間その場で活動をする時(落ち着き)

学習をする時など落ち着いて座れない時があるのでアドバイスが欲しい

8 何か譲れないこだわりがある時(こだわり)

勉強や活動をする時、ゆずれないこだわりがあるのでアドバイスが欲しい

9 人の気持ちがよくわからない時(人との共感性)

先生や友達の気持ちがよくわからない時があるのでアドバイスが欲しい

10 みんなと一緒に活動をする時(集団との協調活動)

みんなと一緒に活動やりにくいときがあるのでアドバイスが欲しい

自己診断チェック時の説明

これから皆さんのアドバイスや支援についてのチェックシートを記入してください。

先生たちが皆さんに声掛けやアドバイスなどの支援が必要かどうかの参考にします。

紙面の10項目のチェックシートを記入してください。

その項目で先生などの声掛けやアドバイスが欲しいときは◎

少しアドバイス欲しい時は○ アドバイスがいらぬ時は△をかいてください。

留意事項

セルフチェックをする学年は小学校3年生以上が望ましい。

小学校2年生以下にする時は、文面の言葉などの説明を丁寧にする。

教室で行う場合は子供同士が干渉したりしないよう充分監督をしてチェックさせる。

チャート評価は

必要な時は◎=3 ちょっとだけ必要な時は○=2 必要ないときは△=1 で行う。

B 観察チェックシート項目 (各項目の判断基準)

1 意思の伝達

自分がやりたいこと、苦手な事、思うこと、感情等を伝えることができる。

かつ他者がやりたいこと、苦手な事、思うこと、感情等の伝達を理解することができる。

要支援は、以上の事が滞ったりできなくならぬような支援が必要。

2 文字の活用

文字で構成されるや表示について速やかに内容を解読して活用すること。

要支援は、文字文や表示を速やかに解読できず、理解や伝達活動が滞らない支援が必要な事。

3 言葉の活用

言葉や文字を活用して自分の思うことや思想、意思、感情等を伝えることができる事。

要支援は、言葉や文字の使役が不十分で、自分の思想、意志、感情の伝達が滞らない支援が必要な事。

4 数的な活用

数を活用して学習活動や日常活動、計算等を応用して解答につなげていくこと。

要支援は、数的な処理が不十分で、学習や活動、計算等が滞らない支援が必要な事。。

5 学習参加

該当年齢相当の学習活動に取り組むことができる事。またはその学習活動を大きく滞らせずに進めるための支援が必要な事。。

6 作業参加

体や手指を活用して、作業活動、制作活動、運搬活動、整頓活動等に取り組むことができる事

要支援は、体や手指を活用して前述の活動に取り組むことが難しかったり、集中して活動を持続することが滞らない支援が必要な事。

7 落ち着き

学習、作業、他者の話を視聴等の活動を一定時間落ち着いて持続することができる。または着座姿勢や位置を持続することができる。

要支援は、一定時間落ち着いて姿勢や位置を持続することが難しく、活動が滞らない支援が必要な事。

8 こだわり

自分のやり方や考え方、物の好き嫌いを重視すること。

要支援は、周囲や他所との活動や交流、会話等で

自分のこだわりを重視して、他者の活動が滞ったり不快や不安を与えたりしない支援が必要な事。。

9 人との共感性

他者や集団の感情や方向性を理解して、他者が不快や不安にならぬように考えることができる事

要支援は、他者の感情や方向性が理解できない、または感情や方向性を理解しても他者が不快や不安にならぬよう考えるための支援が必要な事。

10 集団との協調活動

集団の活動を見て、それと同調したり、協調したりしようとする事。

要支援は、集団の活動の中で 自分も同じ方向で協調した活動が滞らない支援が必要な事。

V チェックシート別の用途

A セルフチェックシートの用途

- ・子ども本人の困り感を理解し、支援につなげる。
- ・どの部分について困り感があるのか把握する。
- ・本シートの結果を考慮し、具体的な支援やBシート作成をすすめていく。

B 観察チェックシート①②③の主な用途

- シート①では子どもの各状況においてどの部分に支援すべき状況があるかを検討する。
- シート②では学校施設等で何を支援をすればよいか方向を検討する。
- シート③では必要に応じて、①②に現れない教室入室や登校が滞る傾向について検討し支援する。

VI チェックシート活用例

観察チェックシートとセルフチェックシートの活用例

- ・SACSは初期段階でも活用できる単純なチェックシートである。
- ・他の知能検査と比べて簡便に要支援状態をチェックすることができる。
- ・学校での支援を検討する上での基礎的な資料ともなりうる。

SACSを活用する場合 四つのモデルケースの提示

- ア 子どもや保護者が個別支援の必要性を感じて相談等を行った場合
- イ 子どもや保護者が個別支援を特に必要と感じていない場合
- ウ 全体から個別支援の必要な子供を見つけ出したい場合
- エすでに医療診断や専門機関に相談に行っていて、学校の支援を模索する場合

以下詳細

ア 子どもや保護者が個別支援の必要性を感じて相談等を行った場合

子どもと保護者に何が困っているか、どんな支援を必要としているかを確認してからセルフチェックシートを制作します。また担当教員等の複数で観察シートを作成する了解を取りながら観察シート①を作成します。要望によっては観察シート②③を作成し、チャートを見ながら何処の部分の支援が必要か相談を進めていきます。

イ 子どもや保護者が個別支援を特に必要と感じていない場合

まずは子どもにセルフチェックシートを記入してもらいことから始めます。課題が明確にならない場合は観察シート①作成の了解を得て、複数の担当教師でシート作成します。保護者とシート①のチャートを参考にしながら、子どもの個別支援について必要性を話し合うことができます。またその後、医療診断や専門機関への相談についても話し合うこともできます。

ウ 全体から個別支援の必要な子供を見つけ出したい場合

例として学級全体の中から要個別支援の子供を見つけたい場合です。学級全体で子どもに説明をした後でセルフシートに記入させます。そこで課題が見受けられた子供、あるいは担当が心配な子供について保護者の了解を得て観察シート①を作成します。そこで傾向が見受けられた子どもがいた場合、担当チームでの情報交換や保護者との面談に繋げていきます。

エすでに医療診断や専門機関に相談に行っていて、学校の支援を模索する場合

すでに医療診断が出ている場合は、その診断を前提にどんな支援を学校でするか、という目的で保護者了解の元で観察シートを作成します。観察シートをもとにして、支援やアドバイスをしていく部分を確

認していくことができます。

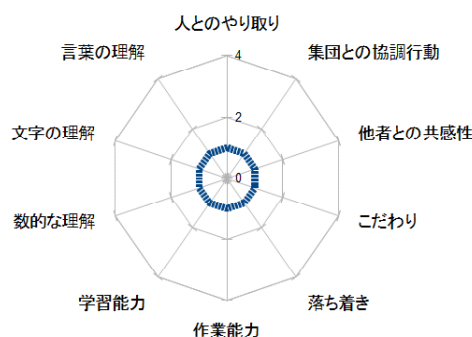
留意点

- ・セルフチェックシートを起点とする場合が多い。セルフシートで子ども本人の困り感を読み取り、観察シート①で担当教師などがそれを補完する方策が望ましい。
- ・観察シート①を制作する場合は保護者の了承を得て制作していく。
- ・支援の在り方を探るためには観察シート②で検討していく。
- ・教室入室や登校への支障を伴うために観察シート③で検討していく。

VII シート読み取り例

観察シート①要支援読み取り例

健常の状態



*読み取りの注意

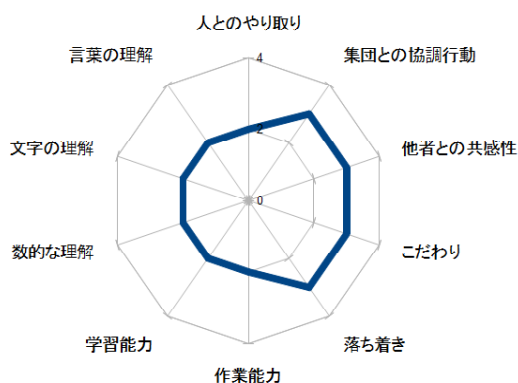
SACSはチェックシートである。

セルフチェックシートと観察チェックシートであり医療診断ではない。要支援を検討するため、傾向を大まかに把握するものである。

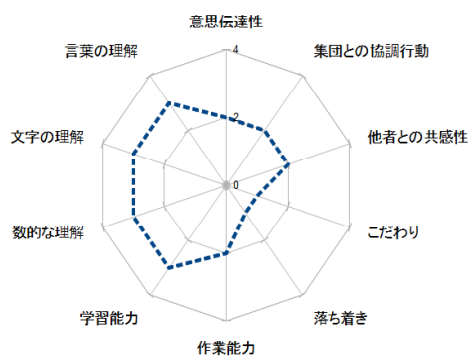
精神的な医療診断がある場合には、その傾向がシートに表出されることがある。しかし目的や用途は、学校等で支援の在り方を探るために行うチェックシートである。

医療診断と見なされない注意が必要。

情緒等に対して要支援の状態



知的学習等に要支援の状態

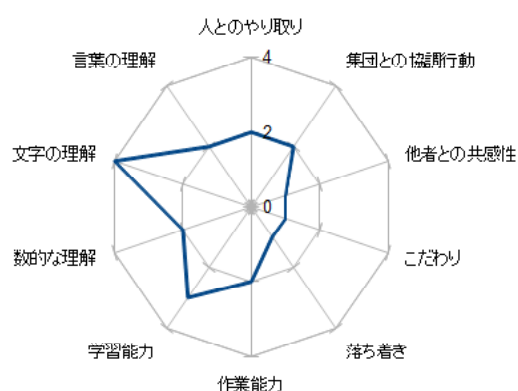


知的学習について要支援か情緒について要支援か大まかに検討することができる

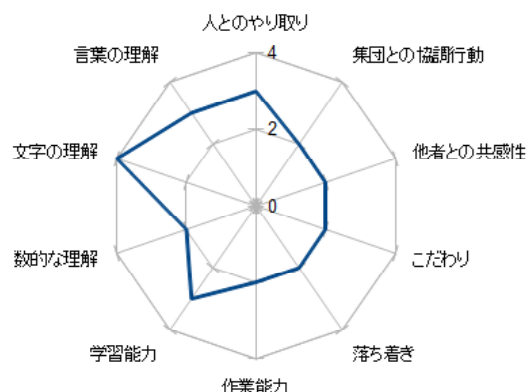
*詳細な表出事例

大まかな傾向チェックであるが、稀に詳細な傾向が表れる場合がある。以下はその事例である。
(場面緘黙 LD ADHD 自閉症スペクトラム等)

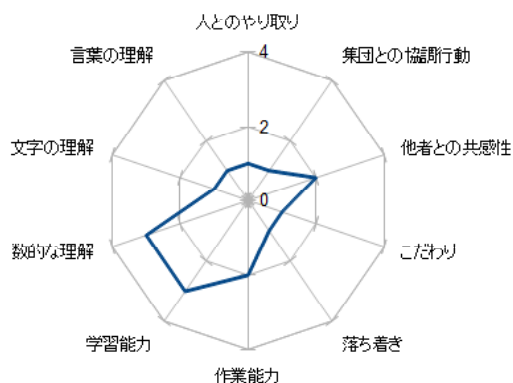
識字障がいディスレクシア



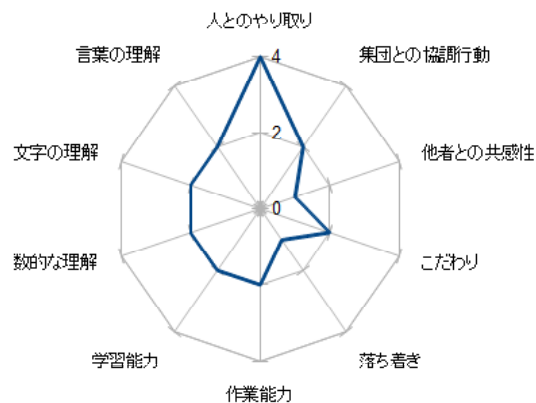
書字障がいデスグラフィア



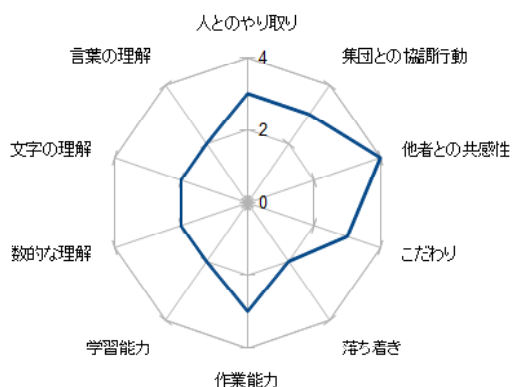
算数障がいデスカリキュア



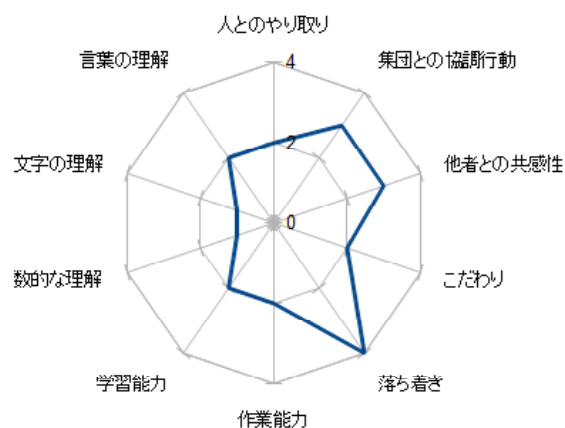
場面緘黙等



自閉症スペクトラム等



ADHD注意欠陥・多動性障害



＊特別な支援が必要な子どもは特殊教育時代は2％程度といわれた。特支教育が始まった時点では6～8％といわれてきた。現在ではさらに増加していると考えられる。しかし要個別支援でない子どもが多いはずである。集団全員をチェックした場合、要支援となる子どもが大半とはならないと考えられる。

障害者職業センター（高度ポリテクセンター）写真資料

